



歩行車

アイルウォーク ^{ライト} Light

[取扱説明書] 保管用

この取扱説明書は必ずお読みいただき、いつでも取り出せる所に大切に保管してください。本製品をほかの方にお譲りになるときは、必ず本書もあわせてお渡してください。

- このたびは、弊社の商品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。
- ご使用にあたっては、ケアマネジャーまたは福祉用具専門相談員にご自身の体調や状態をお知らせの上ご相談ください。
- お一人でのご使用に不安のある方は出来るかぎり同伴者付き添いのもとご使用ください。
- 体調の状態によっては危険な場合もありますので、使用できるかを、ご自身でご判断ください。
- 判断に不安のある方は、ケアマネジャーまたは福祉用具専門相談員にご相談ください。

目次

警告事項・注意事項	1~2
各部の名称	3
車体の組立て(ひろげ)方	3
車体の折りたたみ方	4
ハンドブレーキの操作方法	4
駐車用ストッパの操作方法	4
ハンドルの高さ調節方法	5
ブレーキの調整方法	5
2WAY(ツーウェイ)キャスターの操作方法	5
座面の使用方法	6
傘・ステッキの固定方法	6
長く安全にご使用いただくために	6
保証書	7

※製品改良のため、仕様・外観は、予告なしに変更することがありますので、ご了承ください。
※取扱説明書に使用されているイラストは、説明をわかりやすくするための物です。現物とは多少異なることがあります。

この説明書に関しまして、ご不明な点やご質問などがございましたら、弊社サービス係、またはご購入販売店までお問い合わせください。

MADE IN TAIWAN 21.10



製品を安全にご使用いただくために、ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みいただき、十分ご理解の上ご使用ください。

事故や故障の防止のために、下記の事項を必ず守ってください。

⚠ 警告事項 転倒など重大な事故につながる恐れがあります

- 自動車・バス・電車内、エスカレーターや階段では使用しないでください。
- 雨・雪・凍結など、滑りやすい所では使用しないでください。
- 交通量の多い所、混雑している所、及び夜間の使用は十分注意してください。
- 溝・坂道・道路などの段差のある所では十分に注意してください。
- 車輪を持ち上げた状態で使用しないでください。
- 踏切を横断する場合、段差に十分注意してください。
特に警報機の音が鳴ったときに、慌てて転倒したり、車輪が溝にはまるなど、大変危険な場合がありますので、同伴者付き添いのもと、横断されることをお勧めします。
- 車体の組み立て及び調整は確実に行ってください。
- 車体を押される際は、必ず座面を上げてご使用ください。座面が下りた状態は、安全のため、後輪に補助的なロックがかかっています、ロックされた状態で押されますと、前輪やパイプに異常な圧力がかかり破損や事故の原因となり大変危険です。
- 車体が完全に組み立てられた状態であることを確認の上、ご使用ください。
- 車体を折りたたんだ状態では、絶対に使用しないでください。
- 車体を片手で押して使用しないでください。
- ハンドルの高さ調節部(左右)が固定されているかを確認してください。
- ハンドルに寄りかかったり、荷物を吊るすなど、過度の荷重をかけると、車体だけが前に動き、転倒する恐れがあります。
- 踏み台として使用しないでください。
- 坂道などの斜面では、座らないでください。
- 座面を使用するときは、必ず駐車用ストッパが左右の車輪にかかり、車体が動かないことを確認してください。
- 座面以外の所には、座らないでください。
- 座面に浅く座らないでください。
- 座面から立ち上がる時は、車体が動かないことを確認してから、ゆっくりと行ってください。
- 乳幼児や子供に操作をさせないでください。また、座面上に立たせないでください。
- 乳幼児や子供の手の届く所に放置しないでください。
- 弊社のサービス員以外の分解・改造はしないでください。

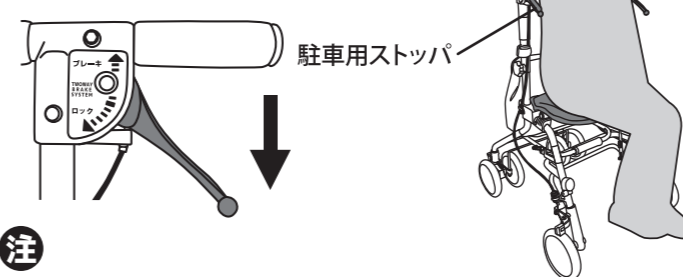
⚠ 注意事項 思わぬケガをする恐れがあります

※使用前

- 製品各部を点検し、調整は確実に行ってください。
(特にハンドブレーキや駐車用ストッパの左右両輪の利き具合、車輪及びブレーキタイヤ押さえの摩耗、車体を押したときのグラつき)

座面の使用方法

腰を掛けるときは、駐車用ストッパをかけ、座面を下ろして、体重が均等に加わるように座面中央にゆっくりとお座りください。

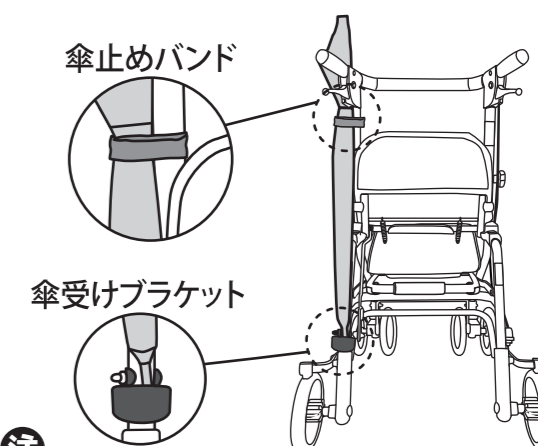


注

- 駐車用ストッパをかけて、車体が動かない状態であることを確認してください。
- 浅く座ったり、背もたれパイプに力をかけすぎた場合、車体が動いてバランスがくずれる恐れがあります。ご注意ください。
- 坂道などの斜面では座らないでください。
- 最大使用者体重は 75kg です。
体重が 75kg を超えられる方はご使用になれません。

傘・ステッキの固定方法

傘やステッキを傘受けブラケットに入れ、傘止めバンドを巻いて固定してください。



注

- 傘・ステッキはハンドルの外側の位置に固定してください。
- 底径が39mm以上のゴムキャップを使用している傘・ステッキは、傘受けブラケットに入りませんので、固定することができません。

長く安全にご使用いただくために

長く安全にご使用いただくために、定期的な安全点検をおすすめいたします。安全点検チェックリストに沿って、日常のお手入れとあわせて行い、必要に応じて修理・交換してください。

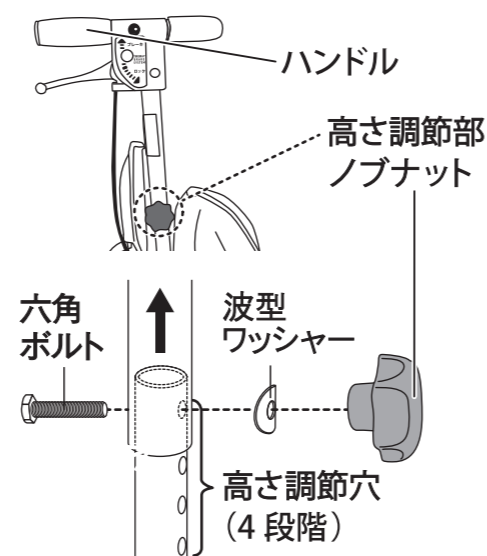
安全点検チェックリスト

チェック項目	対処方法
<input type="checkbox"/> ハンドルのグラつきはないか	高さ調節部の高さ調節ピンが穴にきちんとセットされているか確認してください。
<input type="checkbox"/> 駐車用ストッパは左右きちんとかかるか <input type="checkbox"/> タイヤはすり減っていないか <input type="checkbox"/> ブレーキタイヤ押さえはすり減っていないか <input type="checkbox"/> ブレーキワイヤーに折れ・曲がりはないか <input type="checkbox"/> 各部のネジに緩みなどはないか <input type="checkbox"/> 連結部にサビなどはないか <input type="checkbox"/> ハンドブレーキは左右きちんとかかるか	弊社サービス係へ ブレーキ調節ネジでブレーキを調整してください。(本取扱説明書5ページ参照)
<input type="checkbox"/> キャスターに土や砂などの混入はないか <input type="checkbox"/> 車輪のきしみ・グラつきはないか	キャスター(前輪)を手で回転させて、土や砂を落としてから、回転軸のすきまに潤滑油を差してください。注油後に、キャスター(前輪)の回転操作を2~3回くりかえしてください。

安全点検チェックリストのチェック項目に該当するものがあつた場合は、対処方法を参照して対処してください。それでも改善されない場合は、必ず弊社の点検・修理を受けてください。また、その他の破損や異常が発生・発見された場合は、必ず弊社の点検・修理を受けてください。弊社サービス係が製品の修理または部品の交換を行います。

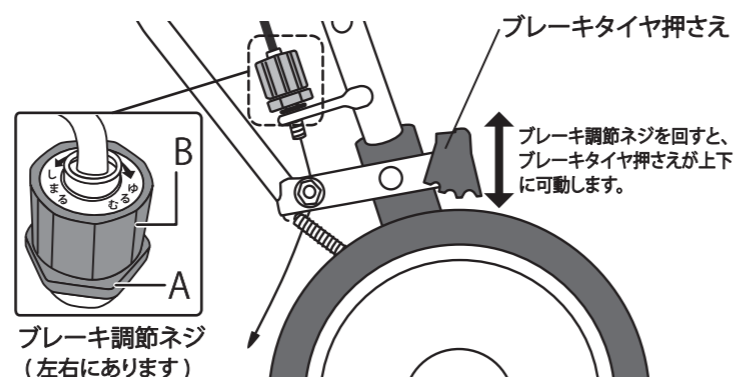
ハンドルの高さ調節方法

- 1 左右の高さ調節部ノブナット、波型ワッシャー、六角ボルトを外します。
 - 2 ハンドルを引き上げて高さ調節穴(全4段階)からお好みの高さに合わせたら、高さ調節穴に六角ボルトを差し込み、波型ワッシャー、高さ調節部ノブナットの順番でしっかりと固定してください。
- 注**
- 左右のハンドルが同じ高さであることを確認し、固定してください。
 - 高さ調節穴に六角ボルトが正しくはめ込まれているかを確認してください。

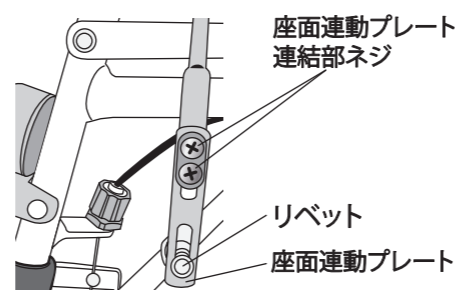
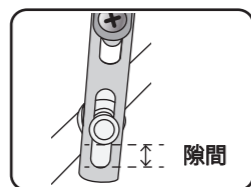


ブレーキの調整方法

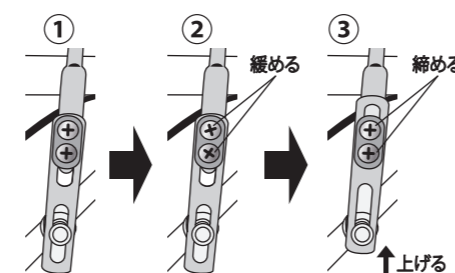
- 1 <ブレーキをきつにする>
Bを「しめる」方向に回して調整し、Aを右方向に回して締めてください。
 - <一度きつにしたブレーキを緩くする>
Aを緩め、Bを「ゆるむ」方向に回して調整し、Aを右方向に回して締めてください。
- ※必ず調整するときは左右両方のブレーキ調整を行ってください。



- 2 ブレーキの調整を行った場合、下のイラストのように座面連動プレートにあるリベットの場所に隙間ができます。



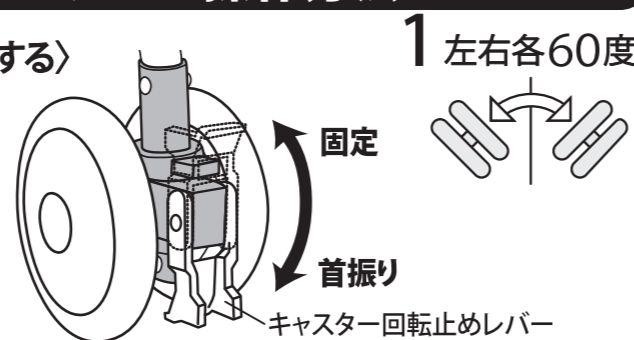
- 3 座面連動プレート連結部ネジを緩め、座面連動プレートを押し上げ、緩めたネジを締めてください。



- 注** 調整が終わったら、左右のブレーキレバーを同時に握り、ブレーキが利くか確認してください。
- ※ この調整をしないと、座面を下ろしたときにかかる駐車用ストッパが利かない場合があります。

2WAY(ツーウェイ) キャスターの操作方法

- 1 <キャスターの首振りを左右各60度に設定する>
キャスター回転止めレバーを下げます。
 - 2 <キャスターの首振りを固定する>
キャスター回転止めレバーを上げます。
- 注**
- 2WAY(ツーウェイ)キャスターの設定が左右同じ状態であることを確認してください。



※使用中

- 最大使用者体重は75kgです。(ご使用される方の体重が75kg以下の方に限ります)必ずお守りください。
- バッグの載荷重は5kgです。5kgを超える荷物は載せないでください。
- バッグ以外の所に荷物を載せないでください。
- ハンドルなどに荷物を吊るしたりしないでください。
- 座面に人を乗せたまま押さないでください。
- 座面を下ろした状態で押さないでください。
- 乳幼児・子供・動物をバッグ内に乗せないでください。
- 車体の開閉操作時には、乳幼児や子供を近づけないでください。
- 荷物はバッグ内の底部に収納してください。
- バッグ内に荷物を入れたまま、車体の組み立て・折りたたみ操作をしないでください。
- ハンドルとハンドブレーキレバーの間に指を入れたまま、操作をしないでください。
- ハンドブレーキは自動車のブレーキとは構造が違いますので過信しないでください。
- ブレーキプレートを踏まないでください。ブレーキプレートを踏まれますとプレートの変形や、ブレーキワイヤーの破損が発生し、ブレーキの利きが悪くなる恐れがあります。
- ブレーキを使用するときは左右同時に握ってください。
- 駐車用ストッパがかかった状態で、車体を押さないでください。
- 車体を折りたたむときは、指を挟まないように注意してください。
- 車体から離れるときは、必ず駐車用ストッパをかけてください。
- 火気の近くでは使用しないでください。樹脂が変形し、性能を維持できなくなります。
- 砂・泥のある所、特に水たまりでは使用しないでください。また、放置しないでください。
- 歩行車の用途以外には使用しないでください。

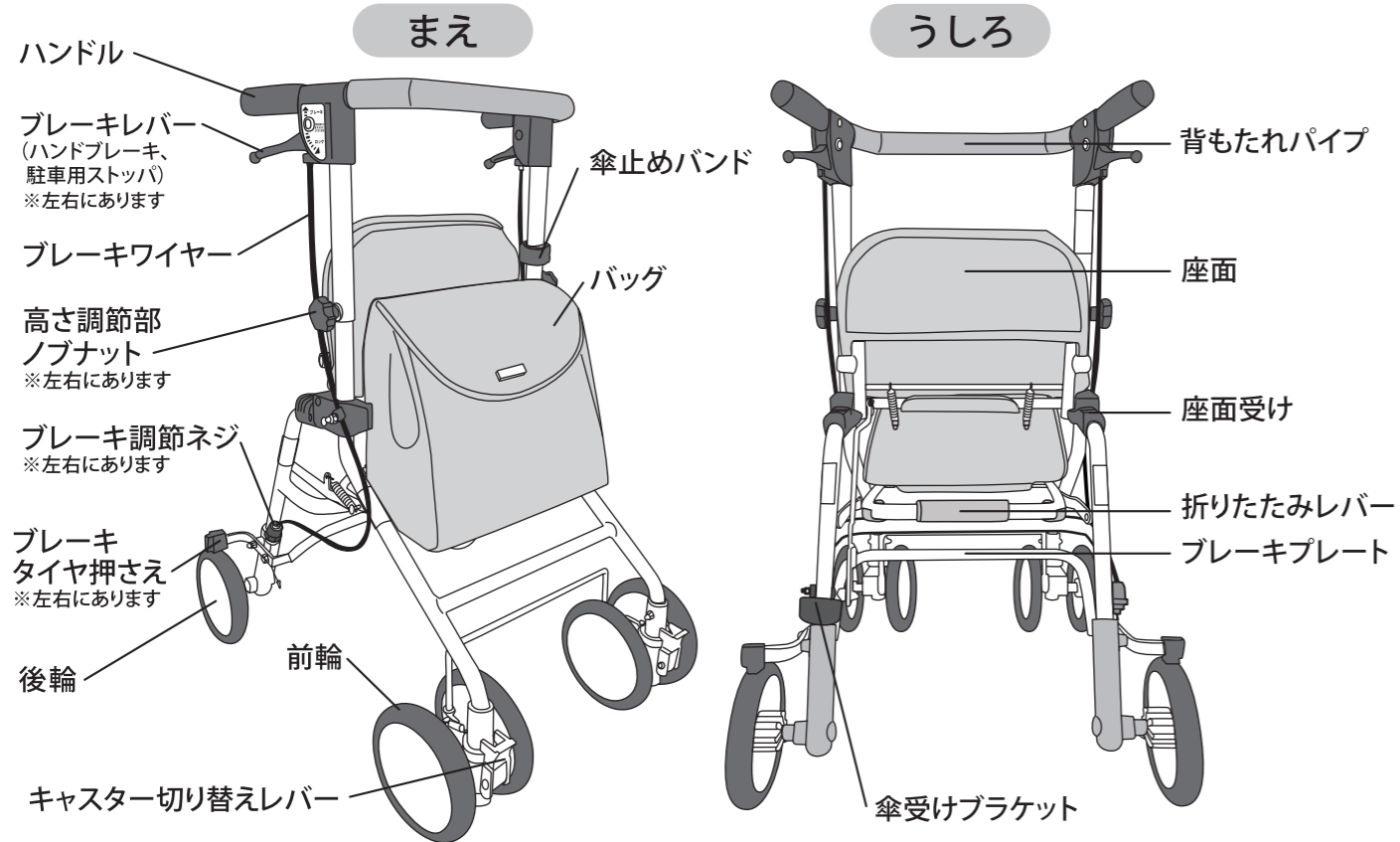
※使用後(保管・お手入れ)

- 火気の近く、高温多湿の場所での保管は避けてください。
- 雨ざらしにしないでください。サビや劣化の原因となります。
- 車体が濡れたときは、乾いた布で拭き取ってください。
- シンナー・ベンジンなどの有機溶剤で車体・バッグを拭かないでください。
- バッグの汚れは、柔らかい布で拭いてください。
- フレームや車輪が砂や泥などで汚れた場合は、そのまま放置せずに必ず汚れを拭き取ってください。
- 長期間使用しない場合は、汚れを落として高温多湿の場所は避け、日陰で保管してください。
- 駐車用ストッパをかけた状態で保管された場合、後輪が凹んでしまう恐れがあります。(駐車用ストッパをかけない状態で、車体を折りたたんでも、自立できる水平な場所での保管を、おすすめします)
- 寒暖の差が激しい所での保管は、バッグの変色や硬化、車体の劣化、動作不良などの原因となる場合があります。
- 車輪や車体がきしむときは、連結部等に潤滑油を数滴注油してください。注油後、車輪の回転及び、車体の開閉操作を2～3回繰り返してください。
- 非常口・消火器・消火栓の前に放置しないでください。
- 定期的に各部(車輪及びブレーキなど)の破損・緩み・摩耗などがいないかを点検し、必要に応じて調整または交換をしてください。
- 定期的に各部のリベット・ネジなどが緩んでいないかを確認してください。
- 取扱説明書は大切に保管してください。

※廃棄について

- 各自治体の指示に従って、処分してください。

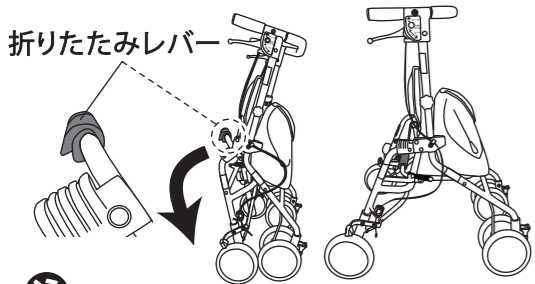
各部の名称



使用時サイズ	約H77～86×W48×D59cm		
収納時サイズ	約H84×W48×D30cm	座面サイズ	約W31×D26cm
バッグサイズ	約H27×W26×D14cm	座面高	約45cm
バッグ載荷重	5kg	ハンドル高さ調節	4段階(約3cmピッチ)
最大使用者体重	75kg	重量	約5.1kg

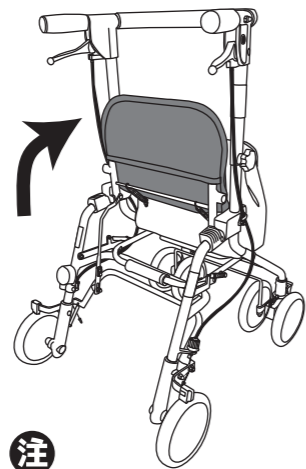
車体の組立て(ひろげ)方

1 片手でハンドルを持ち、もう片方の手で折りたたみレバーを矢印の方向に倒し、車体をひろげてください。



- 注**
- ハンドルをしっかり持ちながら操作しないと車体が転倒する恐れがあります。
 - 指をはさまないように注意してください。
 - ブレーキワイヤーが引っかからないように注意してください。

2 〈車体を押す場合〉 矢印の向きに座面のみを起した状態で車体を押ししてください。



- 注**
- 座面を下ろした状態で車体を押さないでください。

3 〈座る場合〉 座面が座面受けに乗っていることを確認してください。また、両後輪に駐車用ストッパがかかり、動かない状態であることを確認してください。



- 注**
- 指をはさまないように注意してください。
 - ブレーキワイヤーが引っかからないように注意してください。

車体の折りたたみ方

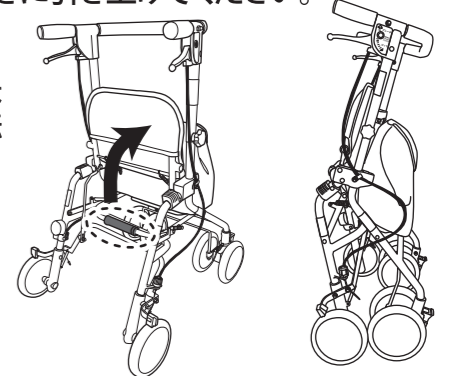
1 折りたたむときは、座面を起し、歩行使用時の状態にします。



2 片手でハンドルを持ち、もう片方の手で座面下部にある折りたたみレバーを上向きに引き上げてください。

注

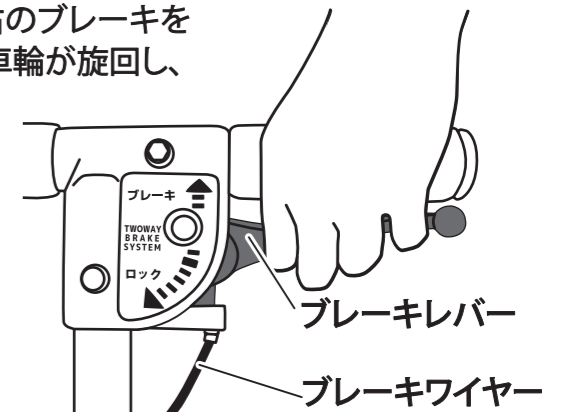
- ハンドルをしっかり持ちながら操作しないと車体が転倒する恐れがあります。
- 指をはさまないように注意してください。
- ブレーキワイヤーが引っかからないように注意してください。



ハンドブレーキの操作方法

ブレーキレバーを握ると、左右の両後輪にブレーキがかかります。

- 注**
- 安全のため、ハンドブレーキを使用するときは、左右のブレーキを同時にかけてください。片方だけかけると反対側の車輪が旋回し、車体が転倒する恐れがあります。
 - ハンドルとブレーキレバーの間に指を入れてそのまま操作しないでください。
 - ブレーキは構造上、自動車のブレーキのように利かないので、過信しないでください。
 - ブレーキワイヤーが折れ曲がったりした場合、ブレーキが利きにくくなりますのでブレーキワイヤーの交換を依頼してください。

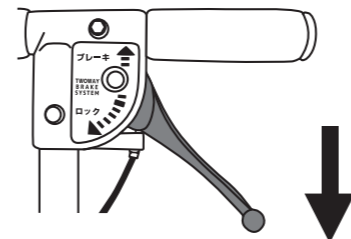


駐車用ストッパの操作方法

① ブレーキレバーでロックする

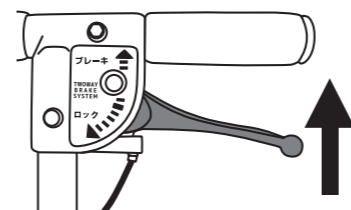
止まる

ブレーキレバーを下げると後輪に駐車用ストッパがかかります。



動く

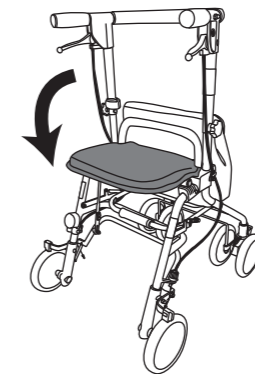
ブレーキレバーを上げると駐車用ストッパが解除されます。



② 車体を組み立てた状態で座面を下ろす

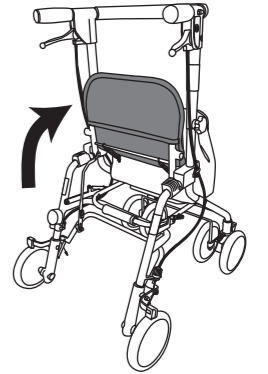
止まる

座面を下ろすと、両後輪に補助的な駐車用ストッパがかかります。



動く

座面を上げると、両後輪の補助的な駐車用ストッパが解除されます。



注

- 車体から離れる場合や座面に腰掛ける場合は、必ず駐車用ストッパをかけてください。
- 駐車用ストッパのロックを解除する場合は、ハンドルとブレーキレバーの間に指を入れてそのまま操作しないでください。ブレーキレバーのはね返りで怪我をする恐れがあります。
- 自動車のブレーキのような停止効果はありませんので、坂道などの斜面では腰掛けしないでください。
- 駐車用ストッパのかかった状態(後輪がロックされた状態・座面を下ろした状態)で車体を押さないでください。
- 座面を下ろすことにより、補助的な駐車用ストッパが作動しますが、これはあくまでも駐車用ストッパをかけ忘れて腰掛けてしまうことがないようするための機能です。腰を掛ける際にも「①ブレーキレバーでロックする」方法をご使用になられることをおすすめします。